



Japan Municipal Hospital
Association · Partners

かけはし

2020年

冬

Vol.12

全国自治体病院協議会・賛助会広報誌
<http://www.jmha-p.net/>



自治体病院とともに53年

理念

公益社団法人全国自治体病院協議会と自治体病院の発展に寄与することを目指します

基本方針

- ① 協議会と協議会所属病院が行う事業に対し協力します
- ② 会員を対象とする研修会等を実施します
- ③ その他本会の目的達成のため必要な事業を行います

会員

病院事業に関わる事業を営む者で本会の主旨を十分に理解した法人です

撮影:賛助会 第3ブロック 平野武信氏

次号より表紙の写真を公募いたします。
応募方法などの詳細は改めてご案内します。

巻頭

公益社団法人 全国自治体病院協議会
松本 昌美 副会長 インタビュー

新入会社紹介

●新たに加わった3社の紹介

賛助会活動報告 / 賛助会会員名簿

松本 昌美 副会長 インタビュー



過疎地域の医療を どのように提供してい

聞き手：全国自治体病院協議会・賛助会

伊藤 誠 会長

藤本 陽子 副会長

松本 孝 副会長

木村 康人 広報委員

賛助会

今期から副会長に就任されましたが、何をご担当されるのでしょうか？

松本副会長

私の担当は広報を中心に、医療連携と在宅医療、そしてACP(アドバンス・ケア・プランニング)を担当させて頂くことになっています。また認知症対応を含め倫理な配慮をどうするか、更には医師確保、地域偏在対策、女性医師支援や慢性期医療といった問題も担当します。

賛助会

幅広いですね。

松本副会長

地域医療、特に回復期や慢性期医療の現場は、総合医が必要ですがなかなか養成出来ません。都会の大きな病院は急性期あるいは高度医療をしっかりやって、医師の確保も比較的しやすいですが、当院のように医師確保をしにくい過疎地域の医療をどのように提供していくかが自治体病院としての大きなミッションの一つです。また、在宅医療支援ではこれまで患者さんが来るのを待って医療を提供していましたが、特に過疎地域においては直接出かけていく必要があると思っています。しかし医師のみならず看護師や介護士といった人材の確保も非常に厳しいことが現状です。回復期や慢性期、在宅医療の現場での医師の役割は医療提供に加えマネジメントであり、現場を直接訪問する看護師やリハビリ、介護職等のケアに関与する多職種スタッフをどうつなぐか、自治体病院や地域密着型の病院こそ、そのマネジメントの役割を果たす必要があると考えています。例えば地域医療連

携推進法人の酒田市や三次市のような成功事例を参考に、自治体病院が中心的な役割を担っていかざるを得ないと思っていますし、地域包括ケアシステムをうまく機能させることが2040年問題に向けての解決策になると考えています。

ここ南奈良地域においても医療と介護がそれぞれの役割を分担し連携することが課題として、お互いに上手く融合させながら、場合によっては医療側が少し介護側のところに踏み込む、或いは介護側が医療側に踏み込むことも必要で、双方のスキルをお互いが勉強し質を担保しながら役割をシェアしていくが必要になると思います。

賛助会

全国自治体病院学会も1年延期となりました。

松本副会長

学会のテーマはそのまま「地域医療を守る～チームで挑む、再生と未来～」としています。当初は地域医療構想に向けての再生とその先の未来を考え、いかに地域医療を守っていくかをテーマにしていたのですが、今はまず「コロナ禍からの再生」です。

シンポジウムに災害時の自治体病院の役割を入れてあったのですが、新型コロナウイルス感染症対策、さらには災害時の感染症対策といった問題を含めてディスカッション出来ればと考えています。また1年後であれば、様々なエビデンスが積み上げられ、ワクチンや新しい治療法の開発もあると思われるので、適切に対応すれば怖くないとなればさらに良いと考えています。

賛助会

国はデジタル庁をつくらうとしています。医療でもリモートで患者さんを診るということが考えられていますが、賛助会会員企業もそのお手伝い出来ると思います。

松本副会長

まさにその通りです。私のところの医療圏は奈良県の2/3の面積があり、人口は1/10以下で山間へき地をたくさん

くか



抱えています。そんな中で、企業団の南奈良総合医療センターは急性期を、五條病院、吉野病院は回復期、慢性期を担当し、公立のへき地診療所も点在しています。また緊急時に南奈良総合医療センターが発進基地となってドクターヘリも飛んでいきます。

3病院と各診療所は「ふるさとネットやまと」というカルテの相互閲覧システムがあり、診療所から当院へ救急受診の時にはかかりつけの様子や症状がわかりますし、検査結果は勿論のこと入院になれば診療所の医師は当院のカルテをみて、治療の状況や退院時期を把握し、その後のフォローを準備することができます。またテレビ会議システムを併用していますのでリアルタイムに相談することもできます。

リモート診療など如何にICTを活用し、足りない部分をどう補うか、賛助会員企業さんのご協力やお知恵もいただきたいです。それによって、より効率的にもなるし、医療提供での距離や時間の問題も解消出来ます。患者への声かけ一つにしても回数も増えることになりまからね。もちろんそれをICTで全部やるのではなく、何度かに一度は医師が対面して診るなどのメリハリは付ける必要はあります。特に医療は「人と人」。これは原則です。

賛助会

賛助会に期待されることは何でしょうか？

松本副会長

当協議会は、ある意味医療のしんどい部分を担当することが多いものですから、そのしんどい部分をしっかりと応援して頂きたいと思っています。それぞれの自治体病院は本当に一人でも多くの応援団が欲しいと思っています。地域住民、主体となる市町村の行政の方々、この人たちが自治体病院の一番の応援団だと思いますが、更に地域医療に関わるところでいろいろご協力を頂いている賛助会の皆様からしっかりと応援して頂きたいと考えています。あるいは我々と行政、我々と住民の方々との連携を上

手くつないで頂けるような役割もして頂ければ大変嬉しいことです。

賛助会

賛助会は出来て50年経っているのですが、少し足を速めながら目的に向かっていこうと思っています。松本副会長にはぜひ我々の応援団にもなって頂きたい。賛助会も学会が大盛況のうちに終わることを願っております。

松本副会長

ありがとうございます。まさに学会参加を通じ、一堂に会して、それぞれ意見交換する、あるいはしんどいところを共有し改善策を練るとか、そこに賛助会の方に加わって頂いて、一緒に将来の医療をどう担っていくかという話し合いをしながら進めたらええなと思います。

こんな性格ですから天然キャラでして。何をやるにしても、とにかく楽しく明るくやろうということをモットーにしています。へき地を抱える地域医療の現場で院長も長くさせて頂いて、邊見名誉会長からは変態だと言われていますが、4年前に総合再編して比較的うまくいって、それなりにモデルケースのように扱っていただき、4年目にして経常収支も黒字になりました。とは言え、そこに至るまではもう本当に医者はおらへんし、診療科は縮小するし、電話しても病院は診てくれへんやないかと怒られるしね。でもまあ、できるだけ前向きに楽しくやってきました。医療のことは当然自分たちの領域ですからよく分かっていますが、医療に関わる方々、また賛助会のような、様々な職種の方々ともっとコミュニケーションをとって、その会話の中から大きなヒントがあると思っていますし、それを役立てていきたいと考えています。

賛助会

是非お役に立ちたいと思っています。自治体病院が地域医療の最後の砦のようなところもあります。地域の方々にとってどういう病院としてどう生き残っていくかというところでも賛助会の応援ができればと考えています。

松本副会長

おっしゃる通りです。自治体病院といえども潰れますから、潰れないようにしっかり経営をしなきゃいけない。本当に潰れてしまったら地域医療の崩壊です。そのためにどのように経営すべきか、賛助会のメンバーの中にはそうしたコンサルができる方々がたくさんおられますので、自治体病院として弱いところである経営力に対しても、ノウハウの提供も含め、ぜひとも一緒にやってほしいと思います。

賛助会

賛助会自身が抱えている課題の一番大きなところは、協議会の会員病院の皆さんに意外と認知度が低いということです。現在も学会でブース出展したり広報誌を出したり活動はしているものの、もう一段の努力で我々の存在を知ってもらって、こんなことができる組織なんだ!困ったときにぱっと賛助会!と直ぐにひらめくような存在にぜひなりたいたと思います。

松本副会長

因みに私は、保育園から小学、中学、高校、大学と全部公立なんですよ。それで医者になってもずっと公立病院勤務です。公立で教育を受けてきましたので、恩返しのもりでずっと公立でやってきたようなものです。私の地元高野山で真言宗を開いた弘法大師のお言葉に「世のため人のため」があり、私の父もそれを大事にしていました。私

も大学病院で勤務している頃に、父が「そろそろ戻って地域のため開業しなさい」と言って、松本病院建設予定地というのを作ってくれたんですよ。それで帰ろうかなと思っていたら大学の恩師が「お前は五條病院をたて直せ」と言われて、五條病院へ移りました。結局、建設予定地は台風で看板が3回倒れましてね。父はもう死にましたが、この看板だけまだ残ってるんです。だから自分では結局、民間にはならずずっと公立でやってきましたということで。幸か不幸かそんなこともあって、全国自治体病院協議会の副会長までなってしまうと、これは本当に最後の恩返しというか、少しでも役に立てるように頑張らせてもらおうかなと思っています。



コロナ禍における全国自治体病院協議会・賛助会の活動

「成り立ち」

当全国自治体病院協議会・賛助会は全国自治体病院協議会が1962年4月に設立されたのを受け、自治体病院の発展に寄与することを目的とし、1968年7月17日に病院関連の有志企業によって結成されました。

現在は139社(2020年9月1日現在)が加入し協議会会員である自治体病院に対し医療にかかわる情報の提供、業務改善提案、学会、研究会、講習会、展示会等に対する協力等の事業を行っています。又、様々な行事を通し会員相互の向上を図るための活動も積極的に行っています。

主な活動

- 1 定時総会(年次活動報告、収支報告、監査報告)
- 2 協議会との意見交換会
- 3 研修会(講演会、病院見学会等)
- 4 新春賀詞交歓会
- 5 全国自治体病院学会やブロック会議への参加
- 6 協議会との情報交換会
(協議会に対し最新事例や業界最新動向・情報を発信)
- 7 寄付活動(協議会及び学会へ)

5月28日(木)、賛助会から全国自治体病院協議会に対し、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた自治体病院の支援を目的として、特別賛助金の贈呈が行われました。

また医療材料の需給が逼迫していた多くの自治体病院から協議会を通して提供の依頼があり、賛助会会員企業からもマスク等の提供を行いました。



特別賛助金贈呈

新入会社紹介

第5ブロック

会社HP

<https://www.infomart.co.jp/>

株式会社インフォマート

弊社は、BtoBプラットフォームで取引関係のある企業と企業を、社内を、ビジネスパーソンを、つないで結び、会社経営、ビジネススタイルを大きく変えるシステムを提供いたします。



第5ブロック

会社HP

<https://www.vitas.co.jp/>

株式会社ヴァイタス

医療情報システムを開発しているシステム開発企業です。ベッドサイドにおける情報端末システムを中心に、スタッフ向けに医療看護支援ピクトグラムシステム、患者、ご家族向けにテレビを利用した情報提供システムを製品化し、多くの病院でご利用いただいています。



第5ブロック

会社HP

<https://www.sunsystemcorp.com/>

株式会社サン・システム

RFID、2次元及び1次元バーコードを利用した医療機関様向け物流管理システムを開発・販売しております。物流全般に関する運用相談や購買実績、在庫状況等の各種調査並びに、現場のヒアリングを通して病院経営をサポートする為の最適なお提案をさせていただきます。バーコードリーダーや各種周辺機器、ラベル等の販売もしております。



賛助会の活動

4月9日(木)

令和2年度 全国自治体病院協議会・賛助会 定時総会

新型コロナウイルス感染拡大の影響により原則委任状による出席とし、役員会社のみ会場となる剛堂会館で参加して開催されました。会員総数136社のうち委任状を含め計83社の出席により、第1号議案から第5号議案まで審議され承認されました。



12月11日(金)

令和2年度 第1回研修会

新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインでの開催となり、出席者は会員及び来賓含めて40名の参加となりました。「新型コロナウイルス感染症により、医療体制はどう変わるのか？」をテーマとして、協議会 副会長 竹中 賢治 先生(天草市病院事業管理者)と協議会 理事 小澤 幸弘 先生(三浦市立病院総病院長)の2名の先生にそれぞれご講演いただきました。



公益社団法人全国自治体病院協議会と共に53年
全国自治体病院協議会・賛助会

当賛助会は、公益社団法人全国自治体病院協議会への協力と自治体病院の発展に寄与することを目的としています。

**第1
ブロック** **医療機器部門
(25社)**

エア・ウォーター防災(株)
 協和医科器械(株)
 グリーンホスピタルサプライ(株)
 コヴィディエンジャパン(株)
 コニカミノルタジャパン(株)
 サカセ化学工業(株)
 サクラ精機(株)
 GEヘルスケア・ジャパン(株)
 シーメンスヘルスケア(株)
 (株)ジェイ・トラスト
 シスメックス(株)
 (株)島津製作所
 (株)タカノ
 (株)千代田テクノル
 テルモ(株)
 日機装(株)
 ニプロ(株)
 日本光電工業(株)
 (株)フィリップス・ジャパン
 フクダ電子(株)
 富士電機(株)
 富士フィルムメディカル(株)
 (株)ホギメディカル
 村中医療器(株)
 (株)理舎

**第2
ブロック** **設備部門
(41社)**

アーバス技研工業(株)
 IHI運搬機械(株)
 (株)アイホー
 アイホン(株)
 アクアス(株)
 アズビル(株)
 アルファエネシア(株)
 (株)アルメックス
 (株)イトーキ
 (株)S&Sエンジニアリング
 (株)荏原製作所
 (株)オカムラ
 (株)くろがね工作所
 (株)ケアコム
 コクヨ(株)
 コマニー(株)
 斎久工業(株)
 三建設備工業(株)
 (株)三晃空調
 シーホネンス(株)
 三和シャッター工業(株)
 (株)スローライフジャパン

(株)セントラルユニ
 ダイダン(株)
 高砂熱学工業(株)
 田島ルーフィング(株)
 東西化学産業(株)
 (株)中西製作所
 日本空調システム(株)
 (株)日本シューター
 日本調理機(株)
 能美防災(株)
 (株)バートナ
 パラマウントベッド(株)
 不二サッシ(株)
 (株)フジマック
 フランスベッド(株)
 文化シャッター(株)
 ホシザキ東京(株)
 (株)LIXIL
 YKKAP(株)

**第3
ブロック** **設計建築部門
(30社)**

(株)梓設計
 (株)石本建築事務所
 (株)伊藤喜三郎建築研究所
 (株)医療開発研究所
 (株)奥村組
 鹿島建設(株)
 (株)教育施設研究所
 (株)楠山設計
 (株)久米設計
 (株)佐藤総合計画
 (株)昭和設計
 積水ハウス(株)
 (株)大建設
 大成建設(株)
 大和リース(株)
 (株)竹中工務店
 (株)田中建築事務所
 戸田建設(株)
 (株)内藤建築事務所
 (株)内藤ハウス
 西松建設(株)
 (株)藤木工務店
 (株)フジタ
 (株)プラスPM
 (株)松田平田設計
 (株)松村組
 三井住友建設(株)
 (株)村田相互設計
 (株)山田総合設計
 (株)横河建築設計事務所

**第4
ブロック** **製薬部門
(9社)**

エーザイ(株)
 共創未来ファーマ(株)
 沢井製薬(株)
 武田薬品工業(株)
 田辺三菱製薬(株)
 東和薬品(株)
 日本ケミファ(株)
 Meiji Seika ファルマ(株)
 持田製薬(株)

**第5
ブロック** **資材サービス部門
(34社)**

(株)アートネイチャー
 (株)INE
 (株)アイシーエム
 (株)アベックス
 (株)アメニティ
 (株)インフォーマット
 (株)ヴァイタス
 (株)エヌジェーシー
 (株)エフエスユニマネジメント
 (株)MHA
 (株)エラン
 (株)LSIメディエンス
 (株)Open Health Initiative
 (株)グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
 (株)ココカラファインヘルスケア
 (株)サン・システム
 (株)サンワ
 (株)シード・プランニング

(株)ジェイワールドトラベル
 (株)じほう
 (株)ジャパンビバレッジホールディングス
 (株)ソラスト
 大日商事(株)
 (株)トーカイ
 (株)ニチイ学館
 (株)日本経営戦略人事コンサルティング
 日通旅行(株)
 富士産業(株)
 ベストワールド(株)
 (株)ホスピタルヘルスケア
 (株)丸井工務社
 八尾医療PFI(株)
 (株)薬栄
 (株)リブドゥコーポレーション

会員数 139社 2020年9月1日現在

※各会員企業へのご連絡・ご相談は…

全国自治体病院協議会・賛助会
<http://www.jmha-p.net/>
 QRコードで確認できます



2020年度 三役会社

会長会社
 副会長会社(会計)
 副会長会社(総務)

(株)伊藤喜三郎建築研究所
 (株)エヌジェーシー
 富士電機(株)